



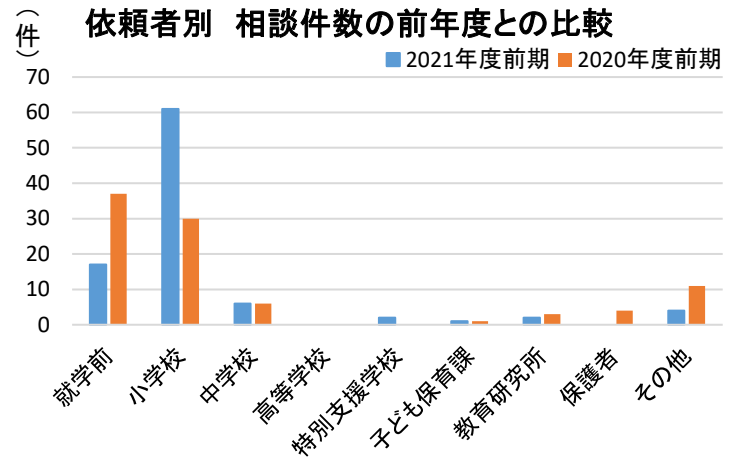
今回の教育相談だよりは、校外支援の状況についてお知らせします。

本校、センター的機能における、2021年度4月から9月末までの校外支援の実施件数は、のべ93件でした。前年同期は、92件でしたのでほぼ同数になりました。以下に、その概要をお知らせします。

## 1 依頼者別の相談件数

	就学前	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	子ども保育課	教育研究所	保護者	その他
件数(件)	17	61	6	0	2	1	2	0	4
割合(%)	19	66	6	0	2	1	2	0	4

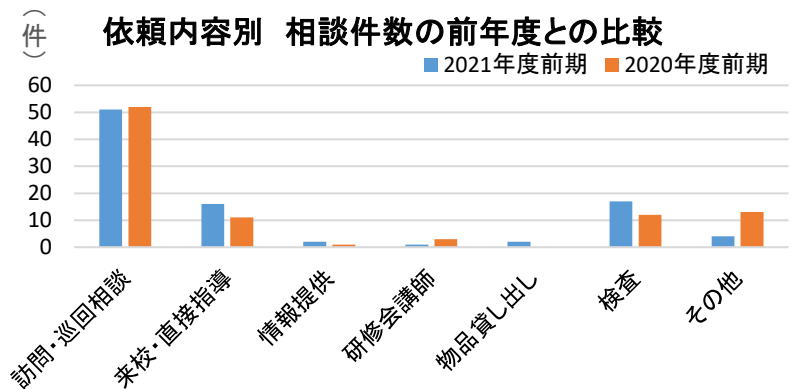
割合は、小数点以下を四捨五入しています。



## 2 依頼内容別の相談件数

	訪問・巡回相談	来校・直接指導	情報提供	研修会講師	物品貸出し	発達検査	その他
件数(件)	51	16	2	1	2	17	4
割合(%)	55	17	2	1	2	18	44

割合は、小数点以下を四捨五入しています。



今年度前期の校外支援の実施件数は、前年同期とほぼ同じ件数でした。

依頼者別の相談件数では、小学校の割合が高く昨年度より著しく増加しました。本校の教育相談は、従来は就学前の幼児に対する知的障がいや自閉症を対象とした相談の割合が高かったのですが、昨年度は小学校の相談件数が増加しました。これは、コロナ禍のなか、学習や学校生活に対する支援が必要な児童が増加していることが大きく影響していると思われます。今年度は、さらに小学校の割合が増加し、就学前の3倍になりました。なかでも、保護者相談や検査依頼が増加しています。これは、小学校の通常の学級において、困難さを有する児童が増加していることに加え、有資格者（特別支援教育士）による実態把握（アセスメント）から指導に至るまでの一貫した指導のノウハウや巡回相談員が有するコンサルテーション、コーチングなど教員等への支援に関する知識と技能が地域の学校園が求めるニーズと合致していることが背景として挙げられると分析しています。今後も、地域の学校園の教育的ニーズを的確に把握し、実効性の高い教育相談活動を展開していきたいと思っています。

知能検査としてよく用いられるウエクスラー式知能検査は、今年度中に改訂され「WISC-V」として発刊されることが決定しています。検査器具、関連書籍などの準備と併せて、検査者の資質向上が求められます。さらに、鳴門教育大学に新設された「発達臨床センター」との協働により地域における発達支援の充実に取り組んでいきたいと思っています。